

## 1. 略歴

1990年4月	東京藝術大学美術学部芸術学科入学
1994年3月	東京藝術大学美術学部芸術学科卒業
1994年4月	東京藝術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻修士課程入学
1996年3月	東京藝術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻修士課程修了
1996年4月	東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程入学
2000年3月	東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程修了、博士（美術）の学位取得
2000年4月	日本学術振興会特別研究員（PD）（2003年3月まで）
2004年4月	財団法人大和文華館学芸部部員（2005年9月まで）
2005年10月	東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻助教授（2007年3月まで）
2007年4月	同 准教授
2012年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

日本美術史。主として中世絵画史を専攻。

### b 研究課題

室町時代に成立したやまと絵の流派である土佐派の研究。古代から近世にかけての絵巻に関する研究。

### c 主要業績

#### (1) 著書

- 共著、高岸輝ほか、『論集・東洋日本美術史と現場—見つめる・守る・伝える』、竹林舎、2012.5  
共著、高岸輝ほか、『お伽草子—この国は物語にあふれている—展図録』、サントリー美術館、2012.9  
共著、高岸輝ほか、『別冊太陽 やまと絵—日本絵画の原点』、平凡社、2012.10  
共著、高岸輝ほか、『アメリカに渡った物語絵 絵巻・屏風・絵本』、ペリかん社、2013.3  
共著、Akira Takagishi et al., *Japanese Visual Culture: Performance, Media, and Text*, National Institute of Japanese Literature, 2013.3  
共著、高岸輝ほか、『図像解釈学—権力と他者』、竹林舎、2013.4  
共著、高岸輝ほか、『近世やまと絵再考—日・米・欧それぞれの視点から』、ブリュッケ、2013.10  
共著、Akira Takagishi et al., *Archaism and Antiquarianism in Korean and Japanese Art*, The Center for the Art of East Asia, University of Chicago, 2013.11  
共著、高岸輝ほか、『絵が物語る日本 ニューヨーク スペンサーコレクションを訪ねて』、三弥井書店、2014.3

#### (2) 論文

- 高岸輝、「十六世紀やまと絵様式の転換」、『文学』、13巻5号、144～152頁、2012.9  
高岸輝、「土佐光信と室町絵巻」、『文化交流研究』、26号、11～18頁、2013.3  
高岸輝、「中世後期絵巻の様式展開」、『美術史論叢』、29号、51～60頁、2013.3

#### (3) 書評

- 佐藤守弘、『トポグラフィの日本近代』、『日本歴史』、764号、169頁、2012.1  
タイモン・スクリーチ、『阿蘭陀が通る』、『日本歴史』、766号、137頁、2012.3  
白幡洋三郎・錦仁・原田信男編著、『都市歴史博覧』、『日本歴史』、768号、137頁、2012.5  
鹿島茂、『蕩尽王、パリをゆく』、『日本歴史』、770号、137頁、2012.7  
加須屋誠、『生老病死の図像学』、『日本歴史』、772号、137頁、2012.9  
大久保純一、『カラー版 北斎』、『日本歴史』、774号、135頁、2012.11  
中村俊春編、『絵画と私的世界の表象』、『美術フォーラム21』、26号、135～137頁、2012.11  
木下直之、『股間若衆』、『日本歴史』、777号、134頁、2013.2  
金子啓明、『仏像のかたちと心』、『日本歴史』、778号、137頁、2013.3  
篠原資明、『空海と日本思想』、『日本歴史』、780号、135頁、2013.5  
山本勉著、『仏像—日本仏像史講義』、『日本歴史』、782号、138頁、2013.7

安村敏信、『江戸絵画の非常識』、『日本歴史』、784号、135頁、2013.9  
大久保純一、『浮世絵出版論』、『日本歴史』、786号、136頁、2013.11  
根立研介、『ほとけを造った人びと』、『日本歴史』、788号、166頁、2014.1  
辻惟雄、『辻惟雄集1「かざり」の日本美術』、『日本歴史』、790号、137頁、2014.3

(4) 解説

高岸輝、「歴史ミュージアム 室町の政治を視覚的に伝える」、『週刊 新発見！日本の歴史』、24号、30～32頁、  
2013.12

(5) 学会発表

国内、高岸輝、「中世絵巻の様式展開」、美術史学会、五島美術館、2012.12.16

国内、高岸輝、「中世絵巻から近世絵巻への展開」、シンポジウム「近世初期の絵と物語」、立教大学日本学研究所、  
2013.1.7

国際、Akira Takagishi, "From Painting to Print to Painting: The Yuzunenbutsu engi Handscrolls and the  
Muromachi Shoguns", CIHA Colloquium, *Between East and West: Reproductions in Art*, The Otsuka  
Museum of Art, 2013.1.16

国際、Akira Takagishi, "The Amewakahiko Narrative Handscroll in the Museum of Asian Art, Berlin and the  
Tosa School of the Muromachi Period", International Symposium *Moving Art: East Asian Objects and Their  
Journeys*, University of Zurich, 2013.3.8

国際、Akira Takagishi, "The Relationship and Collections of Imperial Court and Shogunate in the Muromachi  
Period", *Treasure, Ritual and Repositories in the East and the West*, University of Zurich, 2013.11.24

国際、Akira Takagishi, "Japanese Moving Arts through the Centuries: From Flying Buddha Images to Steamship  
Cargo", Öffentliches Seminar, University of Fribourg, 2013.11.25

(6) 総説・総合報告

高岸輝、小嶋菜温子、高橋亨、「世界の源氏物語絵—いまなぜ光があてられたか—」、『アナホリッシュ国文学』、4号、  
4～48頁、2013.9

(7) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、挑戦的萌芽研究、高岸輝、研究代表者、「絵巻学の創成に向けた理論的基盤の構築」、  
2012～

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、立教大学大学院文学研究科、「日本文学研究」、2012.4～2013.3

非常勤講師、名古屋大学文学部、「日本中世絵巻の研究」、2012.8

特別講演、サントリー美術館、「戦国時代のお伽草子絵巻流行と土佐光信」、2012.10.20

(2) 学会

国内、美術史学会、専門委員、2012.5～2013.5

国内、美術史学会、常任委員、2013.5～